

日明貿易と東アジアの交流

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

今日の問い

室町時代の日本は、明や朝鮮、琉球・蝦夷地とどのように交流したのだろうか。

下線に当てはまる語句を書こう。同じ番号には同じ語句が入る。左の欄の説明もヒントにしよう。

1 日明貿易と朝鮮との交流

東アジアとの交流

4 勘合を用いて行われた、日本と明との貿易。勘合貿易ともいう。

3 正式な貿易船と倭寇を区別するために用いた証明書。

5 1392年に高麗をほろぼし、朝鮮を建国した人物。

14世紀後半、中国で¹ 明が建国され、元を北へ追いやった。そのころ中国や朝鮮半島の沿岸では、² 倭寇とよばれる海賊が船や村をおそっていた。明は倭寇の取りしまりを日本に求め、足利義満はこれに応じて、明の皇帝に貢ぎ物をおくる朝貢の形で貿易を始めた。

正式な貿易船と倭寇を区別するため³ 勘合という証明書を用いたので、この貿易を⁴ 日明貿易（勘合貿易）という。日明貿易は義満の死後に一時とだえたが、のちに再開され、やがて実権は有力な守護大名と、堺や博多の商人に移っていった。

朝鮮半島では1392年、⁵ 李成桂が高麗をほろぼして⁶ 朝鮮を建国した。朝鮮では15世紀中ごろに、独自の文字である⁷ ハングルがつくられた。日本は朝鮮とも貿易を行い、⁸ 木綿などを輸入した。

貿易	日本から	日本へ
⁴ <u>日明貿易</u>	銅・硫黄・刀剣など	銅銭・生糸・陶磁器など
日朝貿易	銅・硫黄など	⁸ <u>木綿</u> ・仏教の経典など

2 琉球王国とアイヌ民族との交流

南と北の交流

10 1429年に尚氏が沖縄島を統一して建てた王国。都は首里。

12 各地の産物を仕入れ、別の国へ取り次いで利益を得る貿易。

13 蝦夷地(北海道)などに住み、独自の言葉や文化をもつ人々。

沖縄島では三つの勢力が争っていたが、1429年に中山の王の⁹ 尚氏がこれを統一して¹⁰ 琉球王国を建てた。琉球王国は都の¹¹ 首里を中心に、明・日本・朝鮮・東南アジアの国々と船で行き来し、ある国の産物を仕入れて別の国へ売る¹² 中継貿易で栄えた。

¹³ アイヌ民族が住み、狩りや漁、交易をして暮らしていた。アイヌの人々がとった鮭や昆布などは、津軽(青森県)の¹⁴ 十三湊などを経て京都にも運ばれた。15世紀に和人(本州の人々)が蝦夷地の南部(渡島半島)に進出し、不公平な取引きも増えると、1457年、首長の¹⁵ コシャマイを中心にアイヌの人々が立ち上がった(コシャマイの戦い)。

できた / 15